

道徳教育地域支援委託事業実施報告書（平成30年度）

1 学校の概要

- (1) 学校名 土庄町立土庄小学校
 (2) 所在地 香川県小豆郡土庄町湊崎甲2080番地1
 (3) 学年別児童生徒数及び学級数、教員数 (平成30年12月25日現在)

第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	特別支援学級	児童生徒数計	教員
3学級 82名	3学級 81名	3学級 88名	3学級 75名	3学級 95名	3学級 83名	5学級 20名	524名	36名

2 研究主題等

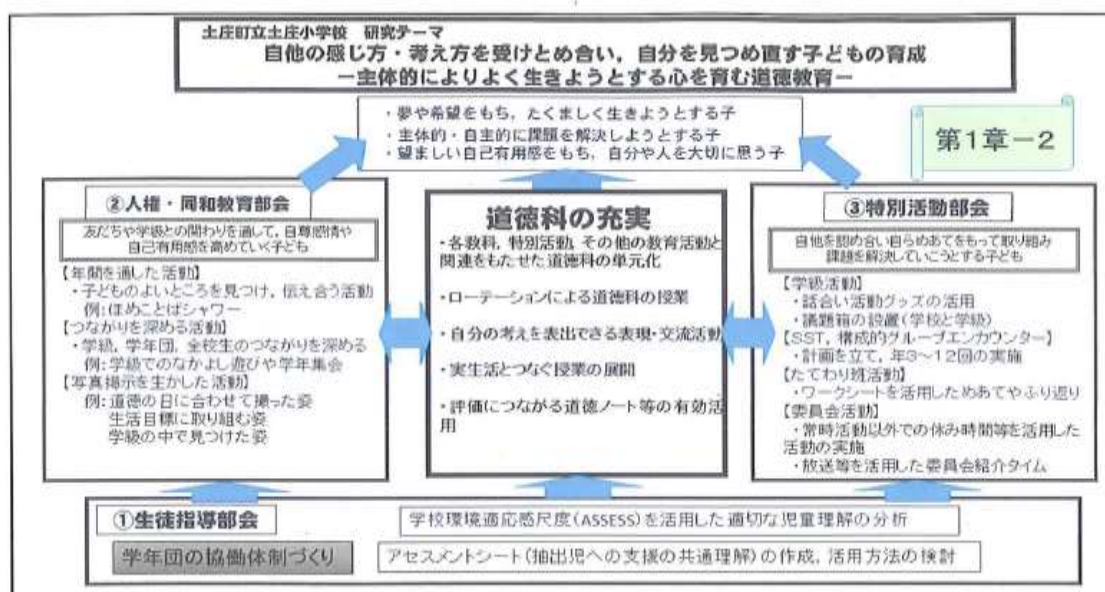
- (1) 研究主題 自他の感じ方・考え方を受けとめ合い、自分を見つめ直す児童の育成
 —主体的によりよく生きようとする心を育む道徳教育—

(2) 研究主題設定の理由

本校では、各教科、特別活動、その他の教育活動との関連をもたせて道徳教育を進めてきた結果、自分のよさや課題を具体的に見つめ、よりよい生き方についての考えを深める児童が増えてきた。しかし、全体的に自己有用感が低い傾向にあり、自主的に活動することや他者の存在を意識したり、他者の立場に立って考えたりすることを苦手とする児童が多いことが課題として浮き彫りになっている。

そこで、本年度は、本校児童のこれらの課題に視点をあて、児童の実態をふまえてねらいとする道徳的価値を具体的に設定し、道徳の授業の充実をはかりたい。また、全教育活動と関連をもたせた取組にも力を入れて進めていくことで、自分を見つめ直し、よりよく生きていこうとする児童の育成をめざす。

(3) 研究の構想



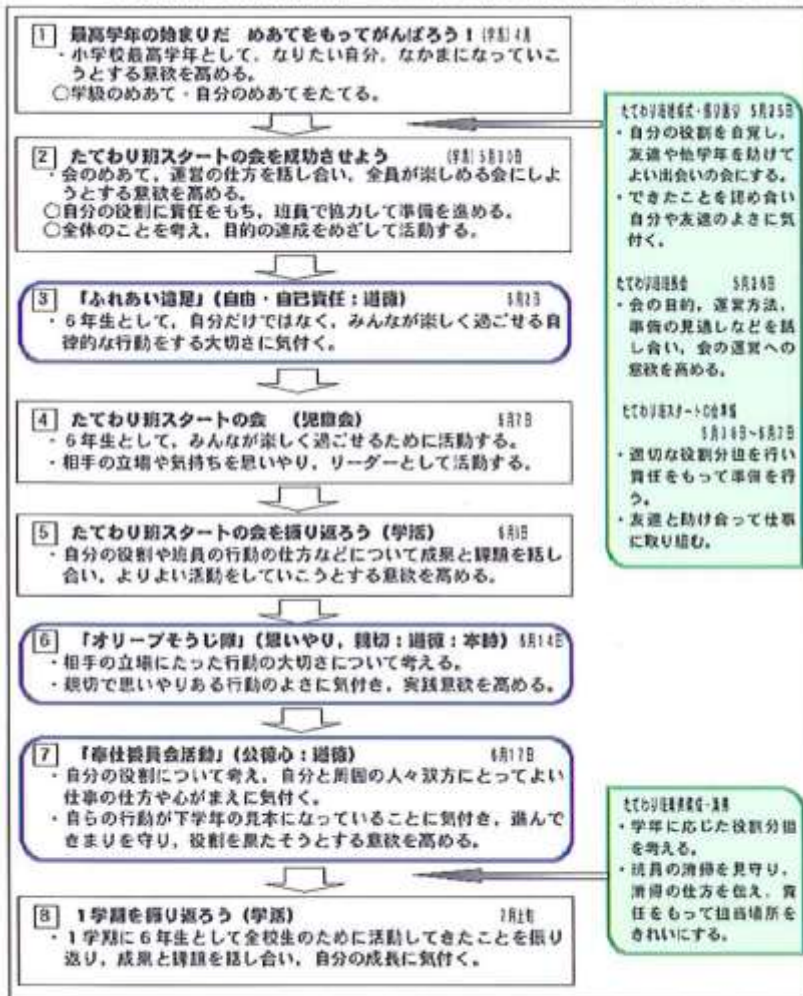
(4) 研究内容及び方法

- ① 道徳の時間の充実
 (ア) 各教科、特別活動、その他の教育活動と関連をもたせた道徳授業（ローテーション道徳）の単元化
 (イ) 自分の考えを表出できる表現・交流活動
 (ウ) 実生活とつなぐ授業の展開
- ② アセスの活動を基盤とした各部会の取組
 (ア) アセスの活用
 (イ) 人権・同和教育部会の取組の中で
 (ウ) 特別活動部会の取組の中で

(5) 研究実践

① 道徳の時間の充実

ア 各教科、特別活動、その他の教育活動と関連をもたせた道徳授業の単元化



【H29年6年1学期：たてわり班活動を核とした道徳単元計画】

道徳の時間を要としながら、各教科、総合的な学習の時間、特別活動などの教育活動を互いに関連させ、児童の道徳性を育成することをねらった。



【たてわり班スタートの会準備】



【スタートの会】



【スタートの会振り返り活動】

イ H29年度の成果と課題を生かしたH30年度のローテーション道徳の重点

平成29年度に実施したローテーション道徳の成果としては以下のような点があげられる。

- 児童の学習意欲の向上につながった。
- 他の学級の児童との関係づくりができ、学年団の協働体制づくりが推進された。
- 教師の学び合い、授業をくり返し改善を図る機会があることで、授業技術が向上した。

また、以下のような課題も見られた。

- 学年で道徳の時間割を合わせることや、年間計画を立てる段階でローテーション道徳を取り入れることを見通した年間計画が必要になる。
- 細やかな個別対応や担任でなければならないような配慮を必要とする児童がいる場合に、個別への支援のあり方を考える必要がある。普段から個々の児童に対する各教師の関係づくりを推進することが重要である。

そこで、H30年度は、年間計画を立てる段階で、ローテーション道徳の実施時期を検討したり、アセスメントシート、座席表の活用方法を検討したりするなどの改善を図ることとなった。

ウ 自分の考えを表出できる表現・交流活動

(7) 少人数での交流活動

児童が話し合い、交流しながらねらいとする価値に迫っていくために、どの学年においても自分の考えを書き、少人数での交流を行った後、全体での交流を行うという流れで表現・交流活動を行った。

1年生では中心場面での人物の気持ちを考える際に、自分の書いたものをペアで読み合って交流することで、全体での発表を苦手とする児童も安心して考えを伝え合う姿が見られた。

3年生以上は、3、4人の少人数グループで話し合い、そこで友だちの意見を受けて自分に取り入れたり、さらに自分の考えを深めたりする姿が見られた。

学年が上がるにつれ、考えを出し合うだけでなく、比較する、分類するというところまでねらうことができた。

(4) 役割演技での交流活動

低・中学年では、全体交流において役割演技を行った。教材の人物を代表の児童が演じる様子を他の児童が見た後、気持ちを考え、多くの児童が意見を交流することを支援し、話し合いの活性化をねらった。

2年生ではお面をつける、3年生では人物名を書いたカードをつけるなどの工夫で見ている側に演じている立場を分かりやすくした。

4年生では、学んだ価値をどう実践していくのかを、全員がペアで役割演技をした。2つの立場を入れ替わって演じることで、方の立場からその価値について考えることができた。

(ウ) 考えの可視化による慈雨流の支援



【H29 4年：付箋紙の考えを分類】



【H29 6年：グループでの話し合い】

場を明らかにすることで、考えの傾向や同じ場面を選んだ児童、違う場面を選んだ児童との交流をしやすいようにした。



【H29 1年：ペアでの交流】



【H29 3年：3、4人での交流】



【H29 3年：代表児童の役割演技】

グループで交流する際には、自分の考えを付箋紙に書き、それを活用してカード操作を行った。

3年生では、グループで自分の考えを書いた付箋紙を紹介し合い、自分の考えと同じところや違うところを知り、自分の考えを深めることができた。

4年生では、グループでカード操作をすることによって、個によって多様な考えがあることに気づき、価値を深めることができた。

6年生では、自分の考えを書いた付箋紙をグループで持ち寄って分類したり、小見出しをつけたりすることで、価値ある行いをするために大切な心を見つけていくことができた。

5年生では、考える場面を精選し、さらに児童が場面選択を行った上で考えを深めていく活動を行った。そ

場を明らかにすることで、考えの傾向



【H29 5年：自分の立場を明らかにする】

(i) 児童の考えを深める話合いの工夫

全体交流では、児童の多様な考え方や感じ方を引き出し、児童相互の考えを深めることをねらった。児童がどのような問題意識をもち、どのようなことを中心にして、自分との関わりで考えを深めていくのかということを中心に置き、考える必然性のある発問、自由な思考を促す発問、自分との関わりを引き出す発問などを心掛けた。

どの学年においても、児童から多面的、多角的な考えを引き出し、児童一人一人の考えに深まりが見られた。しかし、その後の効果的な話合いの中で、多様な深められた考えを児童の日常とつなぐために、どのような言葉でどのようにまとめていけばよいのかが今後の課題としてあがってきた。

(f) 板書の工夫

教師が明確な意図をもって、板書を構成していくことで、児童の思考は深まり整理されていく。

1年生では、主人公の考えの変容を表すのに、上向きの大きな矢印を使い、視覚的にも価値の高まりをとらえやすくした。多様な考えがあることで、どちらへ向かっていけばよいのかの方向付けになった。



【H30 1年：矢印を用いた視覚的な板書】

1年生では、主人公の気持ちがいろいろに考えられる場面での交流を行った。事前研修において、本時に気付かせたい価値がふくまれる考えを児童の言葉で予想し、意図的、計画的に板書を行うことで大切な考えへの気付きを促した。

2年生では、黒板シアターを使って児童が話の世界に入り込みやすくする支援を行った。それにより、登場人物の気持ちを自分の気持ちと重ねて表現しやすくなることをねらった。



【H29 1年：Yチャート上に価値を分類】

5年生では、全体交流で児童が発表する3者の考えを板書上に表す際に、グループ交流の結果をYの形に表し、視覚的に分かりやすくすることで児童が考えを整理しやすくした。



【H30 5年：Yチャート上に立場の分類】



【H29 2年：黒板シアターによる状況把握】

(h) 『道徳の言葉』の活用

友だちの考えを聞いて自分の考えを深め、価値を自分との関わりで考える時に、有効な話型を使ってみた。豊浜小学校の「道徳の言葉」(低・中・高)を参考にして、本校版を作ってみた。

(k) 事前読みやアセスの活用

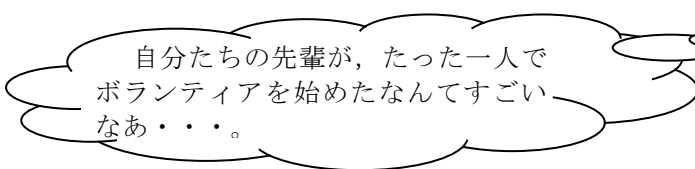
事前読みの感想やよく似た体験やアセスを活用した見立てから、その子のもつ考えを引き出したり、しんどい立場にある児童を活躍させるということから意図的指名をしたりして、交流活動の中で、児童の考えを深めることに役立った。

エ 実生活とつなぐ授業の展開

単元の中で道徳の授業と関連する諸活動（学級活動・たてわり班活動・校外学習・学校行事など）において児童の様子を観察する。その時の児童の様子や発言，振り返りなどを効果的に活用することで，課題を設定したり，道徳的価値につなげたりした。そして，意図的に日常生活の場面写真を活用することで自我関与を促し価値を深めていった。



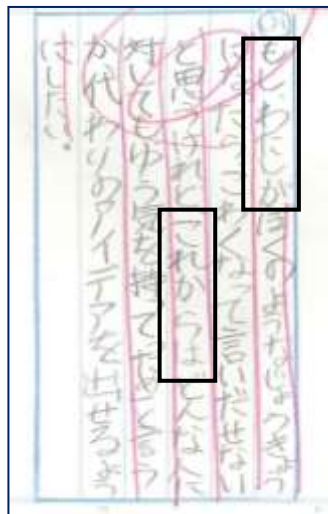
価値を深めた後の終末部分では，実在する先輩の行いや思いを紹介するなど工夫をすることで，教材中の出来事を自分ごととして身近に感じ，今後の自己の生き方につなげることができる。児童からは驚きや共感の声が上がり，自分がこれからできることを考え実践意欲を高めていた。



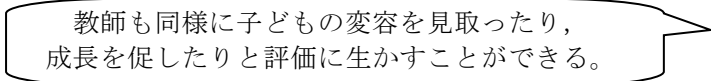
【4年：卒業生の写真とエピソードの紹介】

オ 評価につながる道徳ノート・振り返り等の有効活用

事前読みの感想や，終末の振り返りでは，積極的に「道徳の言葉」（価値に迫る話型）を活用するようにしている。いろいろな見方で考えたり，自分とのつながりや自己の変容，これからの生き方を考えたりする力を向上させることができた。また，言葉を共有して使うことで，自己の気づきだけでなく，友だちの学びや成長にも気付くことができ，学び合いにも効果が期待される。



【4年：振り返りの言葉カードの活用】



【3年：振り返りの記録一覧の活用】

カ 家庭との連携

本校では平成28年度より6月の授業参観で2～6年生の全学級において道徳科の公開授業を行っている。平成30年度は小学校で道徳科の全面実施に合わせ、事前に、全学級で保護者に向けて下のような「参観のしおり」を配布した。

平成30年6月15日(金)

5年2組 保護者のみなさまへ

道徳科授業参観について


①道徳科の授業って…?
子どもたちが、よりよく生きる力を確実につけていくことをめざし、道徳科の学習がスタートしました。今回は、道徳科になって初めての授業参観となります。道徳科の授業では、全学年において、いろいろなお話をもとに、道徳的な内容を学習します。その際には、教材となる話の主人公の気持ちや考えを想像するだけ、また、道徳的な内容を確認するだけの授業にはならないように授業を進めていきます。子どもたちが、主人公に自分を重ねて考えたり、友だちの考えを聞いて自分の考えを広げたり深めたりしていくことを通して学んだことを、今後の生活に生かしていただけたらと願っています。

②どのように評価を…?
学期末にお渡しする「学びのたより」には、道徳科の評価欄が新設されます。個々の子どもたちが、授業において、自分とのかかわりを通してどのように考えを広げ、深めていったかということが書かれることとなります。点数で表すものではなく、一人一人のよさや道徳性の成長の様子をこれまで以上に見ていくこととなります。今回の授業参観でも、上記の点について気をつけて見ていただけたらと思います。よろしくお願いたします。

③6月16日の授業について
5年2組 道徳 教材名「おもしろければいいの」

授業で大切にしたいこと

たくさんの情報を収集しやすくなった世の中、子どもたちとの会話の中には、テレビやインターネットを使って知った内容のことが話題に挙がります。自分が情報の発信者になった場合、善悪の判断をし、さまざまな立場の人に配慮しながら、正しく情報を伝えることが大切になります。この授業では、情報の発信者や受信者など様々な立場の人の気持ちを考え、情報を取り扱う上で、正しい判断を行おうとする態度を育てていきたいと考えています。



道徳科の授業とはどのようなものか、道徳科の授業のねらいなどを説明して道徳教育への理解と協力を求める。

保護者が評価の視点を持ち参観できるように道徳科の評価の仕方や参観の視点を明示する。

参観する授業において「大切にしたいこと」を授業者がどのようにアプローチしていくかを説明する。

【参観のしおり】

ご家庭で話し合ったことや感想などがあればお書きください。(自由記述)
道徳のノートと読んだ。本人が道徳の授業を通して自分の思いや考えを持ち、実行しようとする姿も見え、その成長とても嬉しく思います。そして、それに对して丁寧にコメントして下さっている先生方の言葉に感動します。本人にも親にも響きます。日常の中で起こりうる出来事をクラスやみんなの中で考えることで改めて、どう思っているのか、どう行動するか、明確に理解できるとも思います。楽しい授業を拝見し、いつも習っています。みんながキラキラ輝いている素晴らしいクラスです。ありがとうございます。家庭でも毎日の会話を大切にしてこれからは子供と色々なお話ができるように、楽しんで過ごしていきます。その成長のためにも道徳は必要ですね。

参観や道徳ノートの持ち帰りをすることで、保護者に児童の変容や頑張りを知ってもらえるよい機会となった。

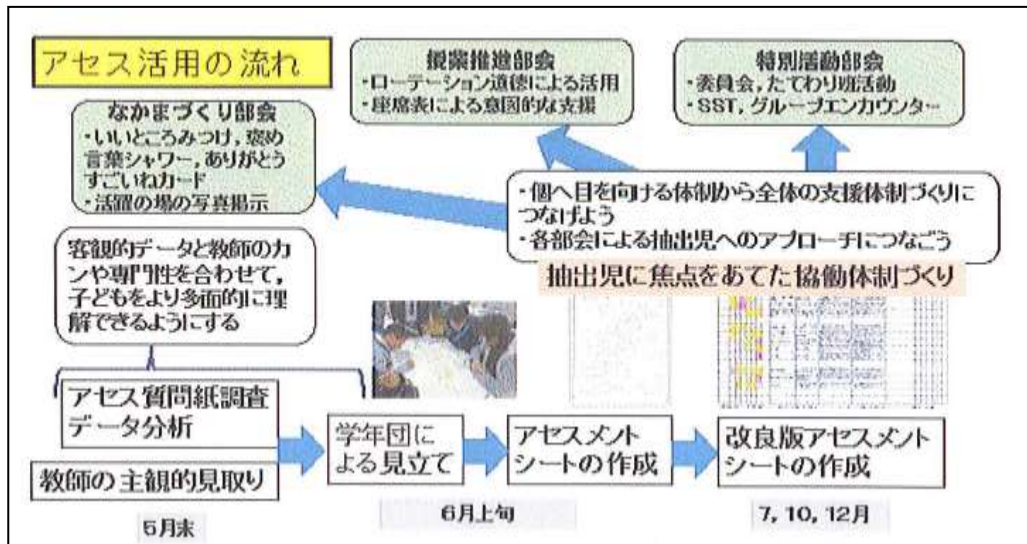
【保護者アンケートの感想】

学年団の教師全員が児童たちと真摯に向き合い、育てていこうとしている姿勢が保護者に伝わり安心できるという意見を聞くこともできた。

② アセスの活用を基盤とした各部会の取組

ア アセス活用の流れ

生徒指導部会では、アセスを活用して設定した抽出児について、他の部会の取組と連動させながら、抽出児への支援を実践したその効果変容を見取っていった。この効果を検証することで、それぞれの部会の取組によって、抽出児以外の他の児童や全体への波及効果があると考えている。



イ 人権・同和教育部会の取組の中で

具体的な取組	抽出児への個別支援	個々に見られた効果
・グループエンカウンターによる人間関係づくり	・グループ交流へのサポート ・気づきを促す声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感 ・自己有用感 ・生活満足感 ・自尊感情 ・自己理解 ・他者理解 ・周囲との関係性の改善 ・居場所の確立 ・社会性
・よい行いの写真掲示	・抽出児が活躍できる場の設定 ・がんばる姿を意図的に全体の場で賞賛	
・褒め言葉シャワー ・褒め褒めタイム ・一言日記の賞賛	・周りから賞賛される場づくり ・その子のよさが見られた時にすかさず取り上げる。 ・教師も積極的にその子なりのがんばりを賞賛することで、周りの目を育てる。	
・学級のなかよし遊び	・友だちとふれ合う時間を確保	

ウ 特別活動部会の取組の中で

具体的な取組	抽出児への個別支援	個々に見られた効果
・グループエンカウンターによる人間関係づくり	・グループ交流へのサポート ・気づきを促す声かけ	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感 ・自己有用感 ・生活満足感 ・自尊感情 ・自己理解 ・他者理解 ・周囲との関係性の改善 ・居場所の確立 ・社会性
・よい行いの写真掲示	・抽出児が活躍できる場の設定 ・がんばる姿を意図的に全体の場で賞賛	
・褒め言葉シャワー ・褒め褒めタイム ・一言日記の賞賛	・周りから賞賛される場づくり ・その子のよさが見られた時にすかさず取り上げる。 ・教師も積極的にその子なりのがんばりを賞賛することで、周りの目を育てる。	
・学級のなかよし遊び	・友だちとふれ合う時間を確保	

3 研究の成果と課題

(1) 成果

ローテーション道徳の活用

道徳科の授業実践

**道徳科と他の教育活動との
関連を図る**

- 学年団でめざす児童像を共有し、協働体制づくりができた。
- 教材研究の充実・授業技術の向上によって質の高い授業が実現できた。
- 教職員同士の学び合いが促進され、若年教員の伸びが大きかった。
- 児童にとって学びがいがあり、記憶に残る授業ができるようになってきた。
- 自分を振り返り、本音を語る児童の姿が見られるようになってきた。
- 学びを生かそうとする姿勢や意欲が高まってきた。

**アセスの活用による抽出児の
共通理解**

- 教師の主観だけに頼らず、児童を多面的に見たり学年全体の児童を育てたりしようとする協働体制づくりができた。
- 抽出児を中核とした指導が周囲の児童への支援の充実につながり、サポート体制が確立されてきた。
- 学年団・全教職員で児童へ関わり、よさを認めようと努める姿勢が高まった。
- 児童同士がお互いのよさを認め合うことが多くなり、人間関係が深まってきた。
- 従来の対処療法的な生徒指導ではなく、個々の児童の内面や人との関わりを高めることによる成長促進型の生徒指導へと教師の意識が高まってきている。

(2) 課題

単元化する際の教材配列

表現・交流のさらなる充実

**道徳ノートや「道徳の言葉」
の工夫**

- ・単元化する際にねらう道徳的価値がよりよく高まっていくようにそれぞれの教材を配列する。
- ・児童の発達段階や実態をふまえた交流の方法や価値へのアプローチの仕方を検討する。
- ・児童の意見の見取り方や生かし方に関する研修を深める。
- ・児童が道徳科での学びを振り返る際に表現の仕方を提示し、自分の生き方を考える支援ができたが、実践化に向けての手立ての工夫が必要である。

自己肯定感の高まりが弱い

- ・道徳との関連のある場で、自己実現を保障する。
- ・長期的な見通しをもって研究を継続する。